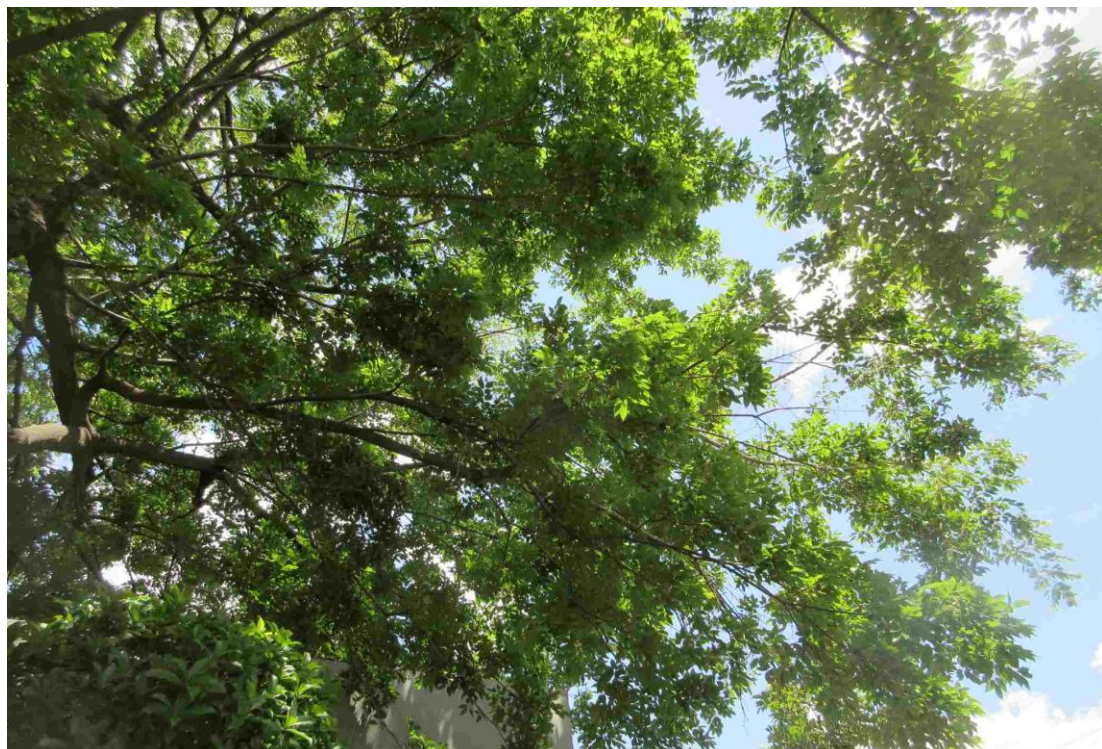


	<p>2026年6月1日 第174号</p> <p>発行：いたばし水と緑の会</p> <p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 http://mizumidori2.eco.coocan.jp E-mail : mizumidori@nifty.com 連絡先 坂本 郁子 榎蔭区中台3-27-E505 090-4618-1295</p>
---	--

涼しい木陰を求めて

市民による樹林の健康診断



異常な暑さがあたりまえになりました。水と緑の会のボランティア活動も短時間で切り上げています。子供たちも外で存分に遊べません。屋外で仕事をされる方には過酷な環境です。葉を茂らせた立派な木は、葉から水蒸気を放出して気温を下げる「天然のクーラー」。土深く張った根は、土砂をしっかり保持して、土砂崩れを防ぎます。樹木や緑地は雨を土に浸透させ、雨の流出を防ぎます。生き物たちも育みます。地球に長い年月を生きてきた自然の強さと恵みです。

身近な公園樹林地の観察会

区の公園緑地も身近な大切な緑なのに、木々は伐採され、切り詰められていることに、危機感を持ちました。そこで、4月12日、身近な公園樹林地の観察会を実施しました。

参加者16名、千葉大学名誉教授藤井英二郎先生もご同行いただきました。

行程

エコポリスセンター（出発）→日暮台公園（旧前野川流域の樹林地）→旧前野川流域の対岸の樹林地（中台2丁目公園、中台南坂緑地、保存樹林）→城山公園・熊野神社→小豆沢公園

前野川って何

源流の一つは若木1丁目5とされ、いくつかの流れがあり、今は下水道になっています。蓋かけされた跡をたどると、北前野小学校手前で左折、出井川と合流し、出井川緑道をたどることができます。

（終点は下水処理場）

日暮台公園（水と緑の会が15年間観察してきたところ）

3月に斜面林補強工事が完了しました。樹木を伐採し、金属杭を打ち込んで公園の斜面を補強する工事で、区内で4例目です。杭の耐用年数、土壌に与える影響など未知数の工事です。この斜面林では2017年に大木10本が伐採されましたが、3本の切り株から新しい芽（ひこばえ）が出てきました。木を切って明るくなった林内には木の子供がたくさん芽生え、2m以上に育ち、森が再生するかに見えました。そんななか、斜面の補強工事のために大々的に木が伐採されました。斜面林には、種子マットが敷かれているためか、発芽が遅いようです。



斜面林工事のついでに、コナラの立派な大木2本その他が伐採されました。（写真右下）

大きな木を伐採する基準はあるのでしょうか。森では木が倒れた後、明るくなった地面にたくさんの木の子供が育ち、世代交代していきます。でも、コナラの大木が伐採された周囲は、地面が明るくなったにもかかわらず、はげ山のままで、木も草も生えて来ない。このように長年草を刈り続けた結果、表土が失われ、固い地面のはげ山になった公園が多い。このようなはげ山には、斜面下に粗朶などを置いて落葉や土が溜まるようにします（しがら柵という。藤井先生の話）。あちこちにあるはげ山になった樹林地も放置せず表土を再生してほしい。



伐採されたコナラ

（切り株の直径90cm）。長い年月を生きてきた立派な木でした。ドングリから、大木になるまで何年かかるでしょう。

気になる木の切り方 木は幹から太い枝、太い枝から細い枝、そして小枝が出て葉がつきます。太い下枝を切ると、枝は二度と生えてこない。枝がないと葉が茂らず、栄養失調になります。葉は木の先端部分に集まり、ひよろひよろの不安定な木になります。

中台南坂緑地

杭による補強工事をした斜面では、さすがに伐採等はされていないと思うが、北側では崖の上部はスカスカで、そこに木が植えられたり、強剪定されたりしていた。また急斜面の上、道路と崖の間の緩やかな斜面（写真右）は、最近かなり伐採・枝切りされていました。土砂の流出を防ぎ、斜面を守るためにも緩衝域の樹林を再生してほしい。このままでは、新たなはげ山ができそう（木は高さ30cm位で切り、切り株の芽を育てるのはいかが）。（坂本郁子）



保存樹林

日暮台公園の対岸にある保存樹林（民有地）。高木が伸び伸びと育ち、林床も人によって荒らされていない貴重な樹林。このまま残されることを祈るばかり。

城山公園と熊野神社の森（写真右）

城山公園は、湧水が出ていて、流れになっており、地元のボランティアが手入れされている。バス通りに面した急な斜面樹林地は金属杭による補強工事がなされたが（2019年3月完了）、もとの樹林が再生している。



熊野神社の森（3頁右下）

城山公園の崖を登ると熊野神社の裏手に出る。

境内には高いケヤキやムクノキ等の老木があり神社の樹林は板橋区登録文化財の天然記念物(名木・巨樹・老樹等)に指定されている。

社殿の横から鬱蒼と茂る木の中に入ると志村城の空堀の一部が残っており城山の歴史を感じる。高木と低木が入り交じり陽射しがあまり入らない薄暗い湿った落ち葉の上を歩くと足裏が、ふかふかと心地好い。

ふかふかの土には微生物や虫が住み、きれいな水を作るそうだ。この下にある城山公園の湧き水にも影響があるのだろう。長い間、自然のまま残されている小さな鎮守の森(小林悦子)。



電信柱のような街路樹

植物は光合成により葉で太陽の光を集め栄養分を作り成長する。

このイチヨウは幹の先端と太い枝ごと剪定され、胴吹きという緊急的な生きる手段として幹から葉を出しているそうだ。電線に接触するから、歩道や道路に枝が張り出しているからと安全確保のために剪定されるのだろうか。

城山公園のイチヨウに目を向けると小枝にたくさんの若葉を付けてクリスマスツリーの形をしている。

これが本来の木の形だと思う。

電信柱のように並ぶ街路樹のイチヨウを見て地球温暖化の防止につながる木をバッサリ切らないで、木に優しい剪定方法により管理してほしいと思いました。

(小林悦子)

小豆沢公園を歩いてみて

崖下を歩いて、中山道を渡った先が、緑に覆われた小豆沢公園です。湧き水の池があり、湧き水の流れがあります。

斜面の上は野球場。子供たちが斜面を滑って降りて、遊んでいます。斜面の木はありますが、地面ははげ山になっています。

平坦地は、以前あった木はなくなり、今は野草の草原に変わりましたが、切り株から芽(ひこばえ)が出ています。若い木を育ててほしいです(写真は次頁)。





以前は森のように木が茂っていたところは、草地に。



体育館通りを渡ると
「湧き水が滴る自然の森」
でも最近ここも木が切られ・・・。



上から見た様子

北側の崖線の一部の木が切られ地面がむき出しになりとても残念です。木の根っ子が浮き上がっている木はたくさんあります。土留め柵をして土砂の流出を防いでいるようですが倒木が心配です。根っ子の周りに木や草が生えしっかり支えあっている木もあります。横に伸びる枝が切られ（強剪定され）上のほうばかり葉が茂った木は細く、弱らないかと思いました。



千葉大学の藤井先生が、根っ子の浮き上がりはその下にもっと根を張っている、根っ子の周りに木や草が生えしっかり支えあっているので倒れないとおっしゃいました。とても大事な事を言われました。木はたくましいなと思いました。



小豆沢神社の下は鬱蒼とした森です。今ある森を保護してほしいと思います。

この場所はニリンソウの自生地です。湿地で湧き水もありボランティアの方の手入れにより今年もシャガ、ハナダイコン、ツツジ、ドウダンツツジ、スミレが咲き春の訪れを楽しませてくれました。

(佐藤克子)



4時間かけて歩いた観察会—市民による樹林地の健康診断—は、小豆沢公園の崖上、小豆沢神社に近い広場で解散しました。お疲れさまでした。

総会を開きました

4月12日、出席者9名。赤塚トンボ池・バッタ広場における生き物の生息環境を守る活動および環境何でも見本市と赤塚公園どんぐりまつりに参加することについて確認した。情報発信のありかた、今年度以降の日暮台公園（樹林地観察等）について意見があった。

活動・観察記録(4月～5月)

トンボ池

カエルの産卵があったが、とうとう孵化しなかった。原因不明。ザリガニ捕獲は3月16日から5月23日までで462匹。昨年の4-5月のザリガニ捕獲数は875匹だったので、半減しているが、減少傾向なのかどうかはわからない。

トンボ池の生き物



写真はアオオサムシです（布施さんが捕獲。たまに死骸を拾ったりしますが、区内で減っている昆虫です（昨年の区の調査では未確認）。オオシオカラトンボ、ギンヤンマ産卵。モツゴの卵、水域の外にいろいろな生き物が住んでいます。カナヘビ、トカゲ（子供によるとめっちゃいるらしい）、ガガンボ（2種）、蛾の幼虫（2種）、イオウイロハシリグモ、ササグモ（?）、アシブトハナアブ、フタテノオエダシヤク、ヒゲナガガの仲間、ベッコウヒラタシデムシ、オオヒラタシデムシ、アオバゴロモ、ウズラカメムシ、モリチャバネゴキブリ、ハバチの仲間、白い蛾



左：不明蛾

右：ハバチの仲間（セリがハバチの幼虫に食われて丸坊主になったが、その幼虫の親のような気がするが・・・）

トンボ池の植物調査(草本)(5月10日)

アズマネザサ、アメリカフウロ、イグサ、ウキヤガラ、エビネ、オオイヌノフグリ、オオバコ、オギ、オニタビラコ、オモト、カキドオシ、カタバミ、カモジグサ、カラスノエンドウ、ギシギシ、キチジョウソウ、キツタ、キュウリグサ、コハコベ、ジャノヒゲ(リュウノヒゲ)、ショウブ、ジロボウエンゴサク、スギナ、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、セキショウ、セリ、タコノアシ、タチイヌノフグリ、ドクダミ、ナズナ、ノゲシ、ハラン、ハルジオン、イノコヅチ、ヒメオドリコソウ、ヘクソカズラ、ミズヒキ、ミゾイチゴツナギ、ムラサキケマン、ヤエムグラ、ヤブガラシ、ヤブジラミ、ヤブタビラコ、ヤブニンジン、ヤブミョウガ、ヤブラン、ヨシ、ヨモギ sp (鈴木 より子)

バッタ広場

キンミズヒキが増えてバッタ広場外では3分の1ほどを占めるようになり、ササと同様に刈り取ることにした。昆虫類は減少している。アカボシゴマダラ、コムスジ、アゲハチョウ、モンシロチョウ、サトキマダラヒカゲ、シオカラトンボ、ツチイナゴ、オオウンモンクチバ、コメツキ、

活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は 坂本まで 090-4618-1295

高齢社会での活動です。作業はほどほどに、お楽しみや探検を取り入れてやっていきます。会員の方も会員でない方も、無理をしないでご参加ください。カマなど道具は用意します。保険は個人で加入してください。

●赤塚ビオトープの手入れ

赤塚トンボ池 板橋美術館横の小さな池です。生き物たちのための土の池です。

バッタ広場 赤塚城址の郷土資料館の上あたり。生き物たちが暮らす草原ビオトープです。

活動日時（第2日曜日と第4土曜日）

6月14日（日）9時30分から11時（サマータイムです）

6月27日（土）9時30分から11時（サマータイムです）

7月12日（日）9時30分から11時（サマータイムです）

7月25日（土）バッタ広場の生き物調べをします（手入れはありません）

集合場所 赤塚トンボ池

持ってくるもの 汚れてもよい服装（長袖、長ズボン）と汚れてもよい靴、作業手袋、帽子、飲み物、

●エコライフフェア夏に出展します。

日時：6月28日（日）11時から16時

会場：セブントウン小豆沢 1階アベニュー

水と緑の会のテーマは、「すずしい緑—樹木は天然のクーラー」

●バッタ広場の生き物調べ

日時：7月25日（土）9時半～11時（受け付けは9時15分から）

集合場所：美術館前

受付後バッタ広場で、生き物を採集・みんなで観察・名前を調べて、元に返します。

●ボランティアの参加を歓迎します。ご意見や自然情報もお寄せください。

ホームページ <http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

いたばし水と緑の会は、自然と共生するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、自然樹林地の調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があります。不定期ですが区外の自然や保護活動の見学も実施しています。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）をお送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。